

李登輝さんをめぐる秋田の動きなど

舛谷政雄（会員）

“真多謝ありがとう台湾”

東日本大震災世界最大支援国

又、東日本大震災の日が巡ってきます。（そして、おりしもWBCベースボールクラシック予選の第一ラウンドが4年ぶりに行われています。少し長いですが、改めて、それに纏わるお話しです。）

“真多謝ありがとう台湾” 東日本大震災世界最大支援国と云うミニ幟を創って父が地元秋田で平成四年から始めた特攻招魂祭へ昨年と今年の講師を派遣してくださった日本李登輝友の会と講師を泊めて頂き歓待して下さった秋田市内のユーランドホテル八橋（松村譲裕社長）へ寄贈させて頂きました。

以前にも謝謝ありがとう台湾と云うミニ幟をユーランドホテルさんが置いて下さったが東京の姉妹店にも置いて下さる！との事で今回は台湾語で「本当にどうも

ありがとうございました！」と云う丁寧な意味の“真多謝ありがとう台湾” 東日本大震災世界最大支援国のミニ幟を寄贈させて頂きました。

話は変わりますが作家の故司馬遼太郎氏の名作シリーズ“街道をいく”の中で最高傑作と云われたのが司馬氏が“日本人以上の日本人”と評した李登輝氏と対談した「街道をいく台湾紀行」と云われるがその中で司馬氏は李氏の様な戦前まで日本軍人だった誇りをもって生きてきた多くの台湾人達と出会い「なぜ日本は台湾を捨てたんですか？」と質問されて言葉に窮してしまう場面が度々あったと記されていた。

先般の熊本の大震災でも数年前の東日本大震災でもいち早く日本に多大な支援を寄せてくれたのは台湾だった。

振り返れば、中国本土に長い間、化外の地と蔑まれて、後に日本の明治新政府によって近代化され、日本の

敗戦後、中国本土から司馬氏の言葉を借りれば「歴史上初めて文明が高い国が文明の低い国に統治された」経験を持ち、日本と中国本土の夫々の統治の違いを身を持って味わったのが台湾人達であった。

インフラ、司法、農業、医療、衛生、鉄道、教育、全てを日本統治時代に近代化に導いていったリーダーは八田 與一、新渡戸稲造、そして台湾総督府長官の児玉源太郎その元で台湾民生局長官を務め後の満鉄総裁や東京市長を歴任した後藤新平等の数々の明治時代エース級人物を日本は惜しげもなく投入した。

（関東大震災後の東京では都民が後藤の思いに応え東京市民自らが土地を寄付して、それを基に道路や公共施設を整備して現在の東京の基礎と云われた帝都復興を成し遂げたスケールの大きい人物で台湾統治時代の経験も参考にしたと云われる。因み岩手県奥州市の後藤新平記念館は近隣の高野長英記念館、斎藤実記念館と供に一日がかりで見ても楽しめる記念館の町でもある。実際に李登輝氏も尊敬していた後藤新平記念館を第一回後藤新平賞受賞者として訪ねている。）植民統治地政策を取った世界の国のバランスシート（貸借対照表）は日本だけが唯一最大の赤字国だったと云われる。

その日本の恩恵、特に教育の上で日本を知る最後の台

湾の日本語世代が後に中国国民党總統から初めての民主的な選挙で總統に選ばれると云う離れ業を行った李登輝氏であった。

その李登輝氏が9歳の頃にラジオで聞いて感動した云う日本と台湾の関係を象徴する事があった。

当時、台湾で練習試合でも一勝も勝てなかった弱小野球チーム嘉義農林学校が何といきなり台湾全島の予選を勝ち上がっただけでなく夏の甲子園本大会の決勝戦まで進出して中京商業に惜敗すると云う「事件」があった！（殆どの日本人は知らないが因みに戦前の甲子園大会は朝鮮代表、満州代表も参加している大会で世界の植民地統治をおこなった国では考えられない大会でもあった。）

弱小野球チーム嘉義農林学校を率いたのは松山商業OBでコーチをして挫折を味わい台湾へ教員として移りすんで来た日本人監督で元々の夫々が持つ特徴、即ち台湾人の強力な打力、現地人の俊足力、日本人の堅実な守備力を混成したチームであった。これこそが八紘一宇であった。当時の日本人指導者が台湾人も現地人も日本人も分け隔てなく協力して上げた教育上の実績事例だった。（如何に指導者によって高校生は変わるか？恐ろしいくらいの事実だった。）

この甲子園準優勝が後の台湾プロ野球の基礎になった。

時代は下って2011年東日本大震災へ世界最大の支援金が台湾から寄せられたが翌年の政府主催の追悼行事には日本政府は約160の国と国際機関の代表に会場1階に来賓席を用意したが、当時の日本政府は中国本土の顔色を伺い、台湾代表を2階の一般席に案内。指名献花からも外した。

そんななかで、2年後の、2013年東京ドームで第3回WBCワールドベースボールクラシックアジア予選日本台湾戦に於いて民間のインターネットユーザーが呼び掛けた日本人の有志達が東京ドームへ「謝謝台湾東日本大震災支援」と書いたプレートでドームを囲んだ。

それを目にした惜敗した台湾チームが感動し最後にマウンドで円を創り、ドームの日本人達に三百六十度の感謝の一礼をして球場を後にした。(なぜか殆どのテレビ局はこのプレートも台湾チームの一礼も放送・報道はしなかった。)

上記の様に我々の先人が残した遺産が台湾の人々に残っている。今でも台湾人達の旅行したり、住みたい国と尊敬する国の第一位は日本だと云われる。(留学は米国が第一位で日本は二位)

戦後、私達は先人が台湾へ残した遺産と台湾人の日本に対する気持ちに應える事を東京ドームに集った若者たちの様に、してきただろうか？

冒頭の司馬遼太郎氏の戸惑いも其処にあったと思われる。

さて、東京オリンピックも3年後に控え台湾の観光客も近くて安全な日本に応援や観光に益々やってくるだろうと思われる。(恐らく今でも日本の外人訪問客の上位の国の一つだと思われる。)

秋田も今年から定期便を目指して秋田と台湾間のチャーター便を大幅に増便する事になった。

「真多謝ありがとう台湾」ミニ幟を置いてくれた秋田市のユーランドホテル八橋は野球場も含む多くのスポーツ施設が近く今はプロ野球や大リーグで活躍しているダルビッシュ有投手等の甲子園を沸かせた多くの球児達が高校時代に宿泊した全国の高校球児と監督が

集まる宿でもある。

何時の日か秋田の高校野球チームと嘉義農林学校の様な台湾の高校球児達が試合や合宿で日本のチームにまみえる時に、このミニ幟「真多謝ありがとう台湾」を見て両国の我々の先人の歴史に思いを寄せて来る日を願って今回改めてフロントへ置かせて頂きました！

真多謝台湾

2017年3月10日 舩谷政雄 フェイスブックから加筆、修正

（私的な事だが昨年の平成三十年夏の第百回の高校野球選手権記念大会決勝戦に秋田県勢として第一回大会以来決勝へ進出した秋田県金足農業高等学校は嘉義農林学校以来の農業高等学校の快挙であった。その決勝のアルプススタンドまで勝ち進んだ応援団の幕を弊社で受注し、秋田県大会優勝から納期のないなかで製作とデザインも弊社金足農業OBに任せた。そして地元新聞でも戦前のKANNOと今回のKANANOの関連記事も後日良く目にする事になった。）

追記、平成三十年二月の或る晴れた日、学生時代を過

ごした京都東山の無数の墓地が立ち並ぶなかで約二時間を掛けて司馬遼太郎氏のお墓を見つけ手をあわせてきた。（何度も諦めようと思ったが遠くから丁度、司馬氏の命日に近い事もあり、司馬氏の生前の代表作であった「菜の花の沖」から由来されたと思われる菜の花が幸運に遠くから目に入ってきたのが手掛かりとなった。）

司馬氏と対談した李登輝氏もお墓を訪ねた事があると言う（因みに李登輝氏の学生時代に京都で過ごしていた京大農学部（農学）の恩師が後に私の大学だった京都産業大学学長となり私自身も一年教えを受けた故柏祐賢氏だった）

その李登輝氏が故中嶋嶺雄氏の招きで中嶋氏が当時学長を務めていた国際教養大学で平成十九年六月に特別講義を行った内容は司馬遼太郎氏との出会いから振り返って自身と台湾と日本を戦前と戦後、身を持って経験をした人生観を次の世代へと繋ぐ講話であった。

その場には私を含め多くの一般聴講の方々に混じって矢張り司馬遼太郎氏の街道をゆく秋田紀行で司馬氏の高い評価を受けた雑誌「原点」編集長の武藤拓自氏、

そして昨年十一月に日本李登輝氏友の会秋田県支部を設立して代表となることになる佐藤典子先生（中嶋氏と同じ長野県出身で秋田市内にて皮膚科開業）もおられた。

付言すれば前述のミニ幟は仙台市長時代に李登輝氏のみちのくの旅を中嶋氏と一緒に支え後に国際教養大学で中嶋氏とともに教鞭をとった梅原克彦氏によって昨年平成三十年六月、戦没者慰霊の為に沖縄県を訪問された李登輝氏にご覧に入れる機会を得た。

人生は誠に人々が過去と現在の縁と云う風で重なりあいながら回っている風車の様に思えてくる昨今である。

平成三十一年三月

日本李登輝友の会会員

ツバサ広業株式会社代表取締役会長 舩谷政雄

李登輝氏 曾文恵・令夫人と梅原克彦氏の写真は日本李登輝友の会会員・前能代市議会議員 小野立氏撮影

（金足農業野球部監督の中泉一豊監督を指導者として長年に渡って育成したのが小野立氏の父上で秋田県高校野球界の名伯楽として知られる小野平氏）





文化

KANOとKANANO

時空をまたぐ農業高校の大きな実り

佐々木 律成



さき、ついでに1957年生まれ、日本赤十字秋田看護大・短大赤十字推進員、元新潟県高松、元東海野鳥保護会、元県吹奏楽連盟会長、大仙市神宮寺。



今夏の甲子園大会準々決勝で滋賀・近江を破り、笑顔で応援団席に向かう金足農の選手たち（8月18日）

今夏の甲子園大会準々決勝で滋賀・近江を破り、笑顔で応援団席に向かう金足農の選手たち（8月18日）



今夏の甲子園大会準々決勝で滋賀・近江を破り、笑顔で応援団席に向かう金足農の選手たち（8月18日）

この第40回金足農500歳球大会に合わせ、大仙市神宮の「かみおか歌謡館」で企画展「金足農 感動の軌跡」が開催され、金足農の奮闘が鮮明に思い出された。私は同時に、「KANANO」と似た「KANO」という文字のユニフォームを着た選手たちの活躍を想した。1931（昭和6）年、日本統治下の台湾代表として第1回全甲子園高等学校野球大会（全国高等学校野球選手権大会）に臨んだ台湾代表として、準々決勝で神奈川農工（現立教大学）に敗れ、準々決勝で小倉（現）に10-2で

勝利を収めた。翌年、日本赤十字秋田看護大・短大赤十字推進員、元新潟県高松、元東海野鳥保護会、元県吹奏楽連盟会長、大仙市神宮寺。

勝利を収めた。翌年、日本赤十字秋田看護大・短大赤十字推進員、元新潟県高松、元東海野鳥保護会、元県吹奏楽連盟会長、大仙市神宮寺。

勝利を収めた。翌年、日本赤十字秋田看護大・短大赤十字推進員、元新潟県高松、元東海野鳥保護会、元県吹奏楽連盟会長、大仙市神宮寺。

勝利を収めた。翌年、日本赤十字秋田看護大・短大赤十字推進員、元新潟県高松、元東海野鳥保護会、元県吹奏楽連盟会長、大仙市神宮寺。

勝利を収めた。翌年、日本赤十字秋田看護大・短大赤十字推進員、元新潟県高松、元東海野鳥保護会、元県吹奏楽連盟会長、大仙市神宮寺。



今夏の甲子園大会準々決勝で滋賀・近江を破り、笑顔で応援団席に向かう金足農の選手たち（8月18日）

勝利を収めた。翌年、日本赤十字秋田看護大・短大赤十字推進員、元新潟県高松、元東海野鳥保護会、元県吹奏楽連盟会長、大仙市神宮寺。

勝利を収めた。翌年、日本赤十字秋田看護大・短大赤十字推進員、元新潟県高松、元東海野鳥保護会、元県吹奏楽連盟会長、大仙市神宮寺。

